

楽しむことの大切さ

城山中学校 三年 森田 笑実

「ペン習字なんてもうやめたい」私の中には常にこの言葉がありました。祖母が講師だったことから、五歳の時に始めたペン習字。初めのうちは楽しんで字を書いていました。年齢を重ねるごとに書く字も難しくなり、字を書くことよりも楽しいことが増えて、ペン習字に対して「面倒くさい」という気持ちが大きくなっていききました。私は元々飽き性なところがあり、様々なことに取り組んでみても途中でやる気がなくなり、なかなか結果が出せないことが多くありました。そんな私が、今もペン習字を続けられているのは、「祖母の為だから」という理由の他に、コツコツやってきたことが結果に現れてきたと実感できるようになったからだと思います。

始めた当初は上手く書けないことが多くありましたが、字を書くことに対して「楽しい」という感覚をもっていたので、ペン習字が苦だと思ふことはありませんでした。しかし、年齢を重ねるごとに「楽しい」と感じるものが減り、私は月一回の提出課題でさえ面倒になり「ペン習字なんてやめたい」と考えるようになりました。それからは、課題を書く時も「適当に出せば良い」と考え、字を書くことは私にとって流し作業のようなものになりました。そんな方法を続けていた私は、あるとき遂に、祖母に「ペン習字をやめたい」ということを伝えてみました。私のペン習字に対しての思いを知ると祖母は、「辛いんだったら少し休んでもいい。でもやめないでほしい」と私が想像していたよりもずっと優しい言葉をかけてくれました。字を書くことが大好きな祖母からの「休んでもいい」という言葉は、なぜか逆に私の心に火をつけました。

そこから私は、「どうしたらペン習字を継続できるか」「どうしたら祖母の様に上手な字が書けるようになるのか」考えてみました。そして一つの結論を導き出しました。それは、「楽しむこと」を大切にすることです。

祖母は字を書くことをいつも楽しんでるように見えました。私が昔ペン習字に対して感じていた「楽しい」という感覚をずっともっていて、字について話す時は、いつも楽しそうでした。私はあの「楽しい」という感覚がペン習字を継続したり、字が上手に書けるようになったりするポイントなのではないかと考えました。何をすることも、「楽しい」・「やりたい」という前向きな気持ちで原動力になっているんだと考えました。

次に私は、考えたことが本当に効果があるのか試してみました。今までの提出日ギリギリ前まで書かずに、直前で面倒がりながら書くという方法から、書けそう！と思っただらちよこちよこやったり、課題の文の中で自分が「この漢字書くの好きかも」と感じる漢字を探したり、練習する時に違う色のペンで書いてみたり、「楽しい」と思えるような工夫を色々しました。その結果、私の中にあっただペン習字に対しての「やめ

たい」という言葉や苦手意識はだんだんと減っていき、それに加えて字も丁寧に書こうという気持ちに変わっていききました。そのかいあってか、最近はあまり賞をとれていなかった日ペンの展覧会で今年は特選に選ばれることができました。私はこの結果を受けて更に「もっと上手に字を書きたい」と思うようになり、ペン習字をずっと続けることができるような気がしました。

最近では、師範になるという新しい目標も立て、その目標を達成するために楽しむことを意識しながら、練習に励んでいます。

私はこの体験から、何かをする時にはまず「楽しんでやる」ということが大切だと思いました。更に、もし無理だと思うことがあっても、自分の経験を思いだし、「継続は力なり」という言葉を信じてあきらめずにやり続けることも結果につながる大切なポイントになると思いました。